

中川根ふる里通信

= 第58号 =

中川根ふる里通信
 昭和61年4月20日創刊
 編集・発行・連絡先
 〒428-0513
 静岡県榛原郡中川町上長尾
 TEL. 0547-56-0015 859-6
 郵便振替口座 00870-4-81556



高郷大井川土手の満開の桜花



森へ行きましよう 娘さん ホホッホ
鳥が鳴くホホッホ あのお森へ
僕らは木を切る君たちはホホッホ

草刈りのホホッホ 仕事しに

ラ・ラ・ラ・ラ、ラ・ラ・ラ・ラ、ラ・ラ・ラ・ラ
ラ・ラ・ラ・ラ、ラ・ラ・ラ・ラ、ラ・ラ・ラ・ラ
ラ・ラ・ラ・ラ・ラ・ラ、ラ・ラ・ラ・ラ、ラ・ラ・ラ・ラ

四月×日、今まで山々にひびき渡ったウエストミン・スター寺院の鐘の音の時報(朝七時・正午・夕方五時)が、森へ行きましように変わりました。

同報無線から流れるメロディーが、お隣りさんの地区と数秒違えて、縹の様に二回流れます。

「山あー、やっちゃーいけん」お茶あー、やっちゃーあわんの時代に入ってもう幾年すぎたでしょう。山は生命を育ぐむ大切な役割りを、お茶は健康飲料として注目されてる産物でありながら、育成者、生産者にとっては対価の低い、経済効率の少ない時代があまりに長く続いていきます。

早く山林業、農業で生計を果てる時代になってくれれば、と思えます。とは申せ、緑豊かな大地、おいしい水にも恵まれて、お茶は都会の人から見れば、ひっそりする様に急須に入れて、何杯も呑む。とても贅沢な仕立もししている。隣近所を気使うやさしい気配りもあります。「いらんせん、うをやく」住らしが、明日への希望になつていゝのです。

ほしいものがお金で手に入る世の中ですが、今、お金で手に入らないものが最も大切なものだ、と

聞いた事があります。大気、水、自然、人情……。沢山ある様で、少ししか無いとも感じられますが、ふる里にはその様なものが、未だく、残されています。

今年の冬は寒さが厳しかった。しかし、雪や雨も例年になく多かつた。三月になつても見渡す山々の頂上は雪におおわれた。三月十七日大札山周辺でマンサクの花の観察会が行われましたが、その時も時なうぬ降雪に見舞われ、参加者の皆さんは、花見と雪見を体験されました。

暑さ寒さも彼岸まで、の諺のとおり、彼岸がすぎたり急に春がやって来りました。桜の花も、咲き急ぎ、例年より早い花見となりました。が、下泉の小屋の彼岸桜はいつになくおそく咲きだつたように見受けられました。徳山、桃ん沢の千本桜も、川根高校のした桜と同時に咲いて見事でした。人工林の多い山々の中、雑木林をなめすと、山桜が多い事に気がきます。麓から山頂へと登り、咲きする様も、風情があります。桜は生命力の強い樹木かも知れません。

四月中旬に入り、又寒さがもどつて来りました。今年のお茶は遅れるかも知れないと思つて、天候が思わしくありませんでした。四月下旬、待ちに待ったお茶時が初まりました。ことしのお茶の出来は、之はどうだったでしょうか。五月下旬には、中川根の本物の新茶が、出まわります。どうぞ、呑んでみて下さい。良い香り、新芽と同じ澄んだ色、まろやかな味の中に、苦味もある。中川根独特

の製法で作られた。お茶だと思えます。

この季節野も山も、めまぐるしく変化して行きます。特に落葉樹の変身は、花咲のじいさん、芽育てはあさんの魔法にかかった様です。エノキ、コナラ、ミズナラ、シテケヤキと、われ先にといそぎます。又、照葉樹にも変身の時が来りました。クスノキの芽は赤茶色、シイの芽は白味がかった黄色、すぐに花が咲き、椎の木、林はあてやかな。金の蔭絵の世界になります。針葉樹の変化も地味ながらあります。二月頃から山を茶色に変え開花させ、皆さんにめいわくとかけに、スギも緑色に落ちつきました。ヒノキも若緑の隈取りが本来、モミの新芽の美しさは、ひときは目立ちます。

木林は生命の源です。皆さん木林へ行きましよう。もしかくたら、カモシカやシカに逢えるかも……



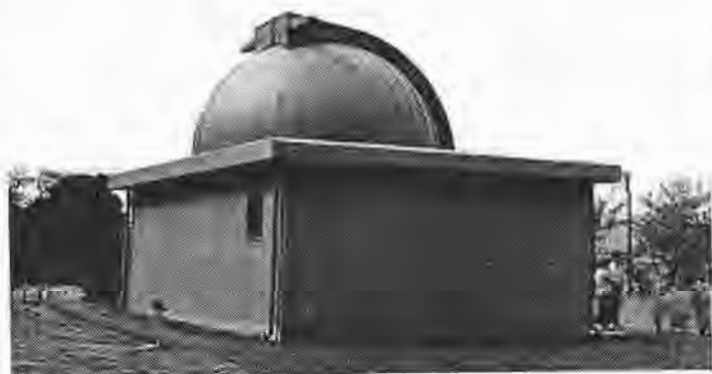
なにかかわね三ツ星天文台が本来さした

中川根町尾呂久保の「中川根ウッドハウス」おろく「ほ」の敷地内に天体観測施設が本来上りさした。名前も、長尾川の水源地の美しくそびえる三ツ星山と、冬空の雄オリオン座の三ツ星を取って、三ツ星天文台と名付けられさした。

この地は標高約七〇メートル、周辺の光源が少なく、展望にも恵まれ、美しい星空が望める。天体観測には、好条件の地です。

写真の様なドームの中に、主鏡(口径400mmの反射式)と副望遠鏡(128mm屈折式)太陽観察用望遠鏡(78mm)が設置されています。五月二十五日(金)からオーパ

ンさね当面、金土日の夜間観察となります。夏休



みとか、連休の時は、連日の観察体制となると思えます。町民の皆さんはもとより、星を見たい人達の為に設置された施設です。中川根ウッドハウスおろく「ほ」も開設されて、十一年、地域とマッチした施設になりました。ウッドハウスに泊まりながら、美しい星空を心ゆくまで味わって下さい。皆様のお来られまを待っています。なお、施設は町営で、望遠鏡操作や、星空案内等のかイドは、約三十人のボランティアによって行なわれます。東亜天文台の秋山さん(金谷町)自身「小惑星カワネ」等の発見者、いろいろが指導してくださいます。



望遠鏡作成(特)高橋製作所

★スターウォッチングネットワークのこと

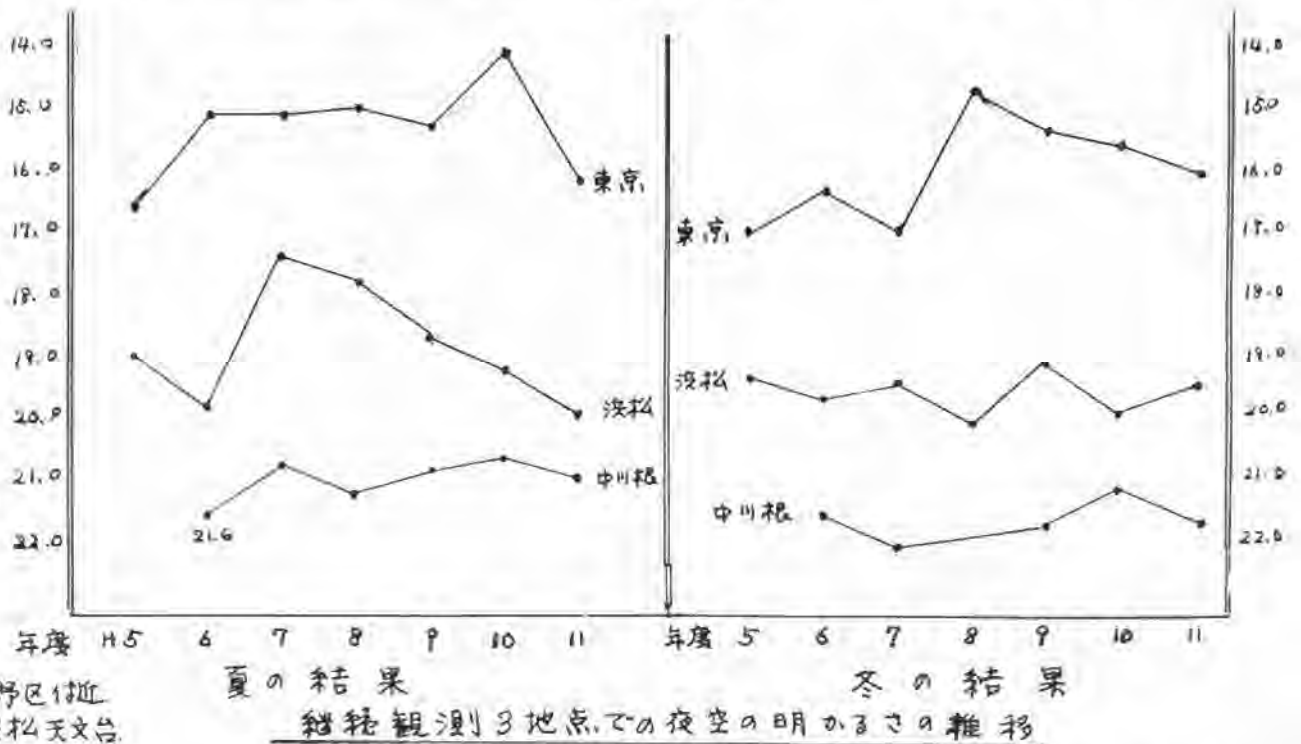
前記三ツ星天文台は中山間地域農林業整備事業で建設され、事業費の1/2以内を県費補助金をいただき、天文観測は星がよく見えるところの方が好条件であります。中川根町の度重なる設置申請に、中川根町が平成六年の全国星空継続観察(スターウォッチング・ネットワーク)で夜空の暗さが日本で二番になったデータが誘致に一役買いました。

三ツ星天文台誘致に貢献出来たことは、大変うれしい事ですが、スターウォッチングをしようとした動機は別にあります。平成五年秋、方言研究者の山口眞洋先生が、環境庁の牛尾先生を中川根町につれて来てくれた事から始まり、「光害」の話と、星空観察を推める話を聞き、「これなら協力できる」と思い、手続きをいたしました。以来観測を始めて十四回(七年)がすぎました。

年間二回(夏・冬)決められた期間に(新月前後十四日間)決められた方法で観測します。双眼鏡による決められた地点内の星の数(夏は琴座のへか付近、冬はプレアデス星団内リスバル)をチェックする方法と同地点付近の写真撮影です。写真のフィルムから一平方秒角の夜空の明るさを判ります。数字が高いほど暗くなり、平成六年の21.6が、全国二番目の暗さになりました。

一般に都市部の夜空は明るく、山間地の夜空は暗く、夏より冬の方が大気が澄んで星が見えやすい様です。日本上空の夜空が世界中で一番輝いて明かるといえます。電力を起すには、沢山のエネルギーを必要とします。

全国星空継続観察結果報告書より
一平方秒角当たりの夜空の明るさ



東京は中野区付近
波松は波松天文台

継続観測3地点での夜空の明るさの推移

我々は、この地球をおおう大気が良好な状態を保っていることによりはじめて健全な生活と営むことができます。大気の状態は普段目で見ても確かめることが難しいものですが、人間の経済活動が急速に拡大するなかで、大気環境に様々な影響が現れてきています。全国星空継続観察は、星空を観察するという身近な方法を通じ、大気環境の状態を調査し、大気環境保全の重要性を多くの方々に考えていただく機会とするために1988年から環境庁、日本環境協会が呼びかけ実施しているものです。

水力発電は自然の大きな犠牲をとらねばなりません。火力発電も、化石燃料(ガス化も含む)を多く必要とします。原子力発電も、人間が造ったものですから、絶体安全とは言えないと思います。資源はかぎりのあるものですから、上手に長く使わなければ、将来が不安になります。その為にも節電にこころがけて、節電にはありませんか。電気は人間の生活になくてはならないものとなっていますから、一層大切にしたいですね。

毎年、全国で四百前後の地点で五千人以上八千人前後の参加者が、同じ星空を観察している……。星空を通し、大気保全、環境問題を考え、省エネを志し、はるか彼方の宇宙へ想いをよせる。その様なスターウォッチング、これからも続けて行こうと思えます。皆さんの地域でもはじめて見ませんか。

五年ほど前の五月中旬、九州、長崎県の長与町にお住まいの熱田さん(旧姓小川、田野口自身)が、環境研究グループの皆さんを同行され、大井川の視察に来られた時、星空観察をおすすめしたところ、数年前から、結果報告書に載るようになり、長与町も星空がきれいに見えるようです。

二年ほど前の晩秋、藤枝市の市街地と山間部を同日に(一時間余の時間のずれはあり)観測する試みをしたことがあります。やはり、星空の美しさは山間部(瀬戸谷)が格段でした。

全国星空観測をやってる

スターウォッチングの中心根拠



4月3日 23時57分 地震発生

四月三日もまさに終らんとする時、縦揺れの衝撃に飛び起きた。今迄に体験した事の無い揺れ方です。揺れは大きくはなく、数秒でおさまりましたが、突き上げるような揺れ方は、震源地に近い事を意味していました。

テレビのスイッチを入れますとさすがNHKで数分後には地震情報に切りかえられました。『県中部に地震発生』大きな赤いX印は中川根町をさしているではありませんか。

そのうちに各地の震度が表示され、震度5強、静岡市、震度5弱、島田市中岡部町、川根町、震度4、大井川町本川根町、春野町、藤枝市……県内の多くの地域の名が表示されるのに、中川根町名が載りません。その内、震度3の表示にやっと中川根町がありました。

翌日の新聞に、マグニチュード五・三、県中部、深さ約三十キロとあり、予想される東海大地震とはおおよしく関係ないであろうとされていきました。

県内でも静岡市や島田市など地震による被害はありましたが、中川根町近辺では何ら被害があつたことは伝わって来ませんでした。

さて、震源地の事ですが、平成八年十月五日、六日と県中部を震源とする地震が発生しました。

北緯35度、東経138度10分、震源の深さ三〇キロメートル、マグニチュード四・三とありまして、今回の地震もこの

地点付近で発生したとの事ですが、(緯度・経度の発表はなし、ただし後日川根町と静岡市の境付近と発表された)この地点は中川根町とも隣接している所(地名地区権現山から塩松山から嶺線沿い

に魚取連山まで、川根町並間地区と分水嶺境いとなつていて、距離的にも非常に近いのです。

それにしても、中川根町の震度も本意だったのだから、うかとも多くの人が疑問に思つた様です。いずれも、震度もより揺れが大きかつたのではないかと、という人が多かつた。地震計は、役場敷内にあるそうです。大学の先生が「この付近は地質が揺れにくい地帯のようだ」とおっしゃられたとか、又測量をされる方が「中川根の地は揺れを吸収しやすい地質だと聞いていた」と言われまされたが、その様なことから、震源地に近い中川根が、さほど揺れなかつたのか、と思つたりしました。地の底から突き上げる縦揺れは不思議な事に、電灯の引きひもがゆるむ事も、時計の針が止まることも、柵から物が落ちることもありませんが、地下で何か起きたことと直感させるものがありました。

静岡新聞は二月五日から、二〇〇二年、東海地震は今といふ特集や、保存版、週刊地震新聞」を発売されて、東海地震への感心が再度たかまっています。特に「二十五年目の変化」はいよいよ来るのか、と心積りより心配度が増すわけですが、自然が相手なので、なる様になるしか無いとも考え、特集が一段落して、気が向くようになった、大先の縦揺れで、びくくりしているところでは、

その点、あれは、うれいなしの誘の様に、今一度、我が家の点検から始まって、自主防災の再検討、地域による危険箇所安全箇所確認などとしておこななければならぬ時期になつていようです。

四月三日の教訓として、電話がひかりにくくなつた事は、確かな様です。安全確認の手段は、電話通信では

無理がある様です。

ふる里通信でも地震特集を何回か組みました。が、(7号、36号、43号、46号)その後過去の、一五〇年を周期にした大地震の昔語りがおて来りました。原田耕作さんのふるさと夜話とも一致するところがあります。載せてみます。

1854
147輛

すり鉢窪の池がくすれ落ちる

すり鉢窪は、中川根の西南の端にあるところ。久野脇へ派生する尾根は境川(西又川)と大井川に狭まれ、大古の昔には地名の方に繞っていたのではないかと、想像お米そうな地形です。久野脇断層の尾根ともなつています。

今は、柚子畑になつていますが、その昔は水を満々とたたえる山の池で、すり鉢窪と言つていたそうです。そのすり鉢窪が、安政の大地震(嘉永七年、寅年、十一月四日発生)で、大井川に面した地面がくずれて、土石流となり、池の水は無くなつた。という言い伝えがあります。46号、ふるさと夜話の、女史の大地震と川根で

富山の配置、売薬業、水野大黒堂は、嘉永七年十一月四日午前八時、前夜の宿泊地、葛籠村の宿を出て、「よこぞうれ山」の中腹の道を、久野脇に向つて歩いて、突如として山がなだれ落ちたという。道もろとも、草の行李を背負つたまま、河原までなだれ落ちたが、不思議にも、幸にも怪我はなかつた……

すり鉢窪の土石流の久野脇よりの端に乗り込んで、大井川まで落ちたのではなから、うか、うか、葛籠、久野脇間は、地くすれ崩壊が多い事で有名だか。

1707
294年前

久野脇対山岸の大山崩れ 久野脇中段が大井川となる

宝永四年十月四日、宝永の大地震が起こる。その時、塩郷地名間（権現山から塩松山にかけて）の大井川に面したところが大崩落して、第1沢をつくり、大井川にせり出し、行き場を失った川水は久野脇に乗り上げ、現在の茶畑中段まで川面となった。

その後、台風や洪水のたびに、耕地や家屋等が流れて、今の様な地形となる。昔の名残りとして、河端道の石畳が残されている。河村次郎右衛門の屋号は「河端」か、ほであったそう。大地震の贈り物として、河端道より西に向かつて段丘が出来、近年川添いのくわき、親水公園キャンプ場、四百平方メートルが生まれた。

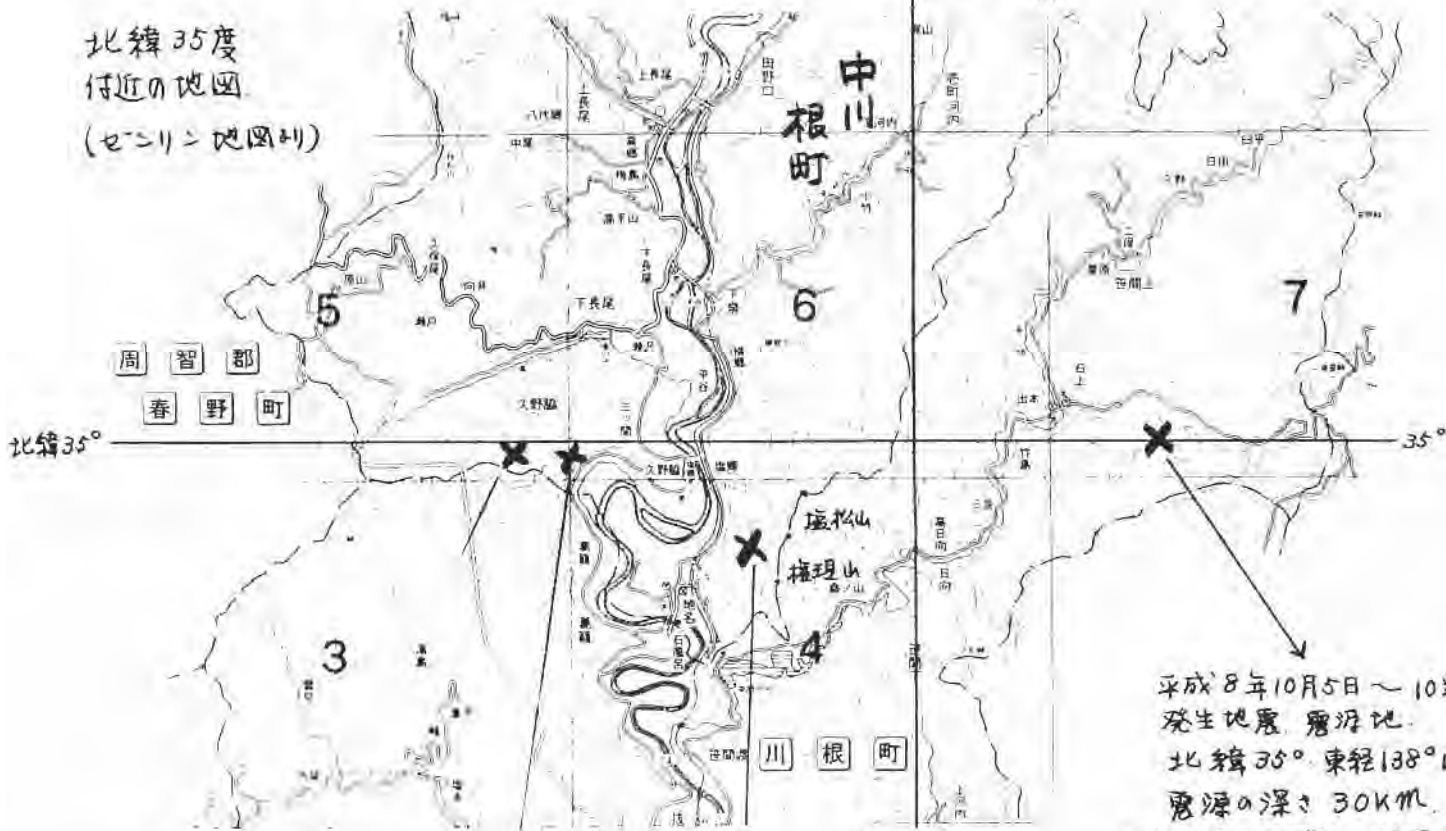
。すり鉢窪の池がくずれ落ちた安政の大地震。
。第1沢が生まれた。宝永の大地震。

。その昔、権現山頂の権現神社が崩れ落ち、お札が風に
乗って石風呂や高日向へ舞いおりたとか……

北緯35度線上は何やら、大地震と関係深い所
に思われますが、大井川の流れもここから、鶴山の
七曲りとなり、見事は曲流を描いて下降して行き
ます。河床から兩岸を見ますと、切り立った山岩が
見事は褶曲模様を見せています。

やはり、地下数十キロメートルに、アジア大陸プレートと
南西から移動して来るプレートとのすみ込みの接
点があるのかも知れないと思える風景です。

北緯35度
付近の地図
(セニリン地図社)



平成8年10月5日～10数回
発生地震 震源地
北緯35° 東経138°10'
震源の深さ 30km
なお、4月3日発生地震も
静岡市川根町境付近から
平成8年10月5日震源とほぼ
同位置となったようです。

すり鉢窪
1854 安政の地震の時
池の一端がくずれ大井川へ流れ出る

よせうれ地帯
1707 宝永の地震の時の
大崩落の地点

ふるさと夜話 第二十九話

山村の餅牛蒡と苧とろろ

原田耕作

春の山菜取りは先ず苧ういもの茎こもから始まります。

苧の茎はいち早く私共に春の訪れを知らせてくれます。「あんなにがいものうまくもない」と若い人達は言いますが、私共老人にとつては「うまいまずいの味より何より春を知らせてくれる山草としてこよなくたつかしいものです。」

調理に依つてにがみを除つてしまふことができませんが、矢張りにはがみが少しある方が春を感じます。先年都会の八百屋で苧の茎五ヶ入りのパックが一個五百円の値段に「高価だナ」と驚いたことがあります。

川根では苧の茎が伸びて花になる頃、蓬たけなすの摘みとりが始まります。

一ヶ月遅れの四月三日のひな祭りに供える菱餅には必ず蓬餅がはいった

ものです。女達は袋を背負い、

籠を腰につけて蓬摘みに出た

ものですが、近年飽食時代

となり餅を食わなくなったためか、蓬摘みに出る人も少ない様です。

ところて、昔から蓬を全く

摘まない土地があります。



大井川の奥地井川村(現在静岡市)では良い蓬が生えているのに向に摘みません。

蓬の代りに餅牛蒡もちいもという草が至る

所に自生していて、その草の葉でなければ、草餅に用いられません。

餅牛蒡は見たところは栽培する牛蒡とそっくりです。葉も、茎も、花も、異るところは根の形です。栽培牛蒡は一本根がスリッと長く伸びるのに反して、餅牛蒡は並通の草の根同様沢山のひげ根ができて、四方に張っているのです。

井川の人達は栽培する牛蒡とそっくりの葉を採取して餅をつくり蓬は一向に見向きもしませんでした。味はどうかというとは蓬の様な香りは全くないけれど、ネットトリーに味わいが何んとも言えない旨みを持っておりました。

戦後、山牛蒡の味増漬という食品が市販される様になったが、井川の餅牛蒡と同種の山牛蒡の根の中から太いものを選んで漬物にするのではないかと、思います。

ところで、山牛蒡と言っても、全くの異種で、食用山牛蒡より丈も高くなり、葉の形も異なり、実のなる植物があります。これは薬用にはなると言いますが、食用にはなりません。食用山牛蒡は寒冷地でなければ育ちません。井川の山牛蒡を千頭へ移植してみたところ、二、三年は芽が出たが、育たなかつたというのを聞いております。





りかうすいと思ったらやまのいもか
市販のつくねいもを少しすり加え
ると良いものです。

戦前、私が静岡市に在住当
時、秋田県の山村出身の警察
官から「蕨の「とろろ汁」の話
を聞きましした。戦後帰郷して
から、春になると、わらびを
取ったたびに「とろろ汁」を
作りますが、私は大の好物で
す。
私に話してくれた方の郷里
では、わらびが沢山取れるが、
静岡県の人達の様に日乾し
て貯蔵することはない。塩漬
にして、雪の深い長い冬の野
菜代りにする、ということ
でした。もう一つのわらびの
食べ方は、「とろろ汁」にする
ということでした。
わらびの「とろろ汁」は至って簡単に作れます。
取ってきたわらびを直ぐ茹でてすりこぎですりつ
ぶします。自然薯(やまのいも)の「とろろ」はおろ
しがねで最初すりおろしますが、わらびは茹でて
すりつぶします。その後はやまのいもの「とろろ」と
変りなく、味噌汁か、だし汁で適当に
のばしてゆきます。みどり色のき
れいな「とろろ汁」ができます。粘
りかうすいと思ったらやまのいもか
市販のつくねいもを少しすり加え
ると良いものです。



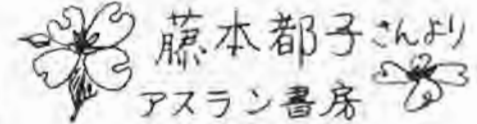
中川根町 町史研究会 地域探訪「瀬平地区」で
瀬沢 平谷 境川 鼻連峠 など地域の歴史を
原田さんから学ぶ。2月27日 瀬平公民館にて
中央 前向きが原田さん 左上写真が熱弁をふるっている様子

わらびは早生と晩生と二種類ありま
すが、「とろろ」に用いるには、日当り
の良い所に生える早生種より、杉林
などに生える肥えた黒味がかつた
太い茎の晩生種のほうが良いと思
います。
今回のふるさと夜話内容はがらり
と変えて、山国の野草料理にしました。
餅牛蒡は簡単に口に入れることが
できないと思いますが、わらびの「と
ろろ」は春になればいつでも食べら
れます。一度味わってみて下さい。
最後に「薊(あざみ)について少し書
き加えます。あざみは山牛蒡、また
は栽培する牛蒡と同じキク科の植
物です。

普通里に咲くあざみは花が紅く小さい草ですが
山あざみまたは鬼あざみと言う、鋭いとげのあ
る大きな葉で、花もまた大きいあざみが中川根の
後線林道の道端には沢山自生しています。
この鬼あざみの根が山牛蒡の根と同様漬物に使
う地方があるというところを山野草の書物で私は
読んだことがあります。山牛蒡は別名菊牛蒡と
言います。キク科から取った名前でしょう。



お便りコーナー



桜の散り花水木が満開です。そして新緑から若葉へと初夏の気配がたふよといはれ始めました。この季節は朝から暮れ方まで新しい生命のツヤめきに目を奪われてしまいます。大井川の川べりのお茶畑も、みる芽でおおわれれていることでしょう。

このところのお茶ブームで、ペットボトルや缶入りのお茶が、どんとん販売されています。甘味料入りのジュース類と比べれば、健康的

自ら茶摘み「飲む」

校内で栽培 郷土意識・健康養う

奥久慈茶で有名な大子町にあり、学校で毎日、お茶を飲んで



を給食時に飲んだり、家庭からお茶を持参したりと、お茶を通して「郷土の特徴と健康教育」を実践している。

06年に旧町立佐原小学校を含む3校が統合されて設立された。その時、隣接する旧佐原中学校の校庭にあつた約3坪の茶畑を校内に組み入れた。

昨年の収穫量は約70kgで、およそ1年が過ぎた今でも、児童たちは自分たちで摘み取ったお茶を

給食時には、お茶が机の上のついている大子町左貴のきはら小学校で

飲んでいる。給食の配せん室に給湯器があり、給食時に給食と一緒に、各クラスに運ばれる。飲み方は自由。1年生のクラスでは、給食後のはみがきの際、お茶で口をゆすいでいる。鈴木久子教諭は「虫歯予防にもいいんですよ」と話す。

茶摘みは毎年5月下旬に行われる。年間を通して、児童たちは草取りをしたり、PTAの協力で肥料を入れたりして育



大子町立さはら小学校 (三次克巳校長・児童80人)

でもあるし。若者たちもよく飲んでいろいろです。本来のお茶の味を見直してくれたらいいな———と思っています。

同封の記事(左面)地方版に掲載されたので、お送りします。私たちがいち・中・そして高校でもやって来た風景を思い出してしまっていました。もっとも当時は用務員の方がいってお昼になるとお茶のヤカンももってきて来たもので、うさぎの形で、やっているとこぼは、

詩岡県内でも、こぶし(うさぎ)の形で、やっているとこぼは、効用を話す。お茶の産地ならでいい風邪対策となつた。

三次校長は「風邪や虫歯予防の健康教育だけでなく、地元の名産を子どもたちに身近に感じてもらいたい、郷土意識を持ってもらいたい」と、お茶を飲む習慣を今後も続けていくつもりだ。

今年から、冬場にお茶でうがい始めた。児童はお茶の入った水筒を持参し、体育の終了時や休み時間にうがいをやる。鈴木教諭は「お茶にはカテキンが含まれていますが、緑茶にはカテキンが多量に入っています。お茶を飲む習慣を今後もしっかりと、その



わたしのなりたひもの
わたしはパンやさんになりたひ
いろいろなパンをつくりたいから
いつもいろいろなパンが
たべられたらいいなと思う
わたしの一番好きなパンは
クリームパンとチョコパン
いつもたべられたらいいあわせ
おとなになったら
せつたいパンやさんをやりたい
龍ヶ崎市立八原小
5年 広瀬 美咲

当然であると思いますが、教育委員の方にも是非参考にしていただければと思います。

今年になって、あんまり明るい話題がなく、少々沈み気味です。アスラン書房の本を好んでいろいろ紹介してくださった小学校の先生が、突然自殺されてしまいました。うさぎ病だったやうです。

中高年が今、生きにくい世の中になつてきていると言われますが、どの世代も不安

を抱えているのは同じです。若い方と話していても、やはり頼るのは自分しかないといい切ります。

川根の子どもたちが、今どんな風に地域の中で生きているのか、知りたい気持ちです。このところ、もう一度、原点の赤ちゃんから見直してみています。

子育ての伝統は、川根でも残っているの、でしょうか。機会があったら、是非ふる里通信でレポートしてみてください。ゆ……ゆ 地名出身ゆ……ゆ



「ゴールデンウィークの始まりに藤本さんから前記の便りが届きました。新聞切りぬきからアスラン書房の本の案内のリーフレットとニコロ出版会の本50冊のリーフレットが入っていました。その見出しに、

「子どもたちの本離れは、年を追うことに深刻化しています。幼いときから、両親や先生とともに文字や絵に慣れていくことで、一人の人間の成長にとってどんなに大切であるかについては、いまさらいうまでもありません。」

50冊の中には、歴史の古い岩波書店や小学館、講談社から、30年位前から児童文学を出版している福音館書店や金の星社、そして藤本さんの出版社アスラン書房の「リディアのガーデニング」も載っていました。子どものことと、いつも考え、若者にもやさしい心配りをあずけず、より高い理想に燃へ、児童文学書出版を志す藤本さん、これからも夢を送って下さい。

さて、幼少時代、ひらがなをおぼえたときと、いっぴろい読みから絵本にしたとき、読書が好きになる楽しい、その様な時代は過去になってしまったので、どうにか、テレビが全ての感覚を満たしてしま

ったので、どうか。時は移りテレビゲーム、パソコン、携帯電話と勞せず、目に入り耳に入り、誦々と読むことも、書くことも話すこともあまり必要としない時代になってしまったようですね。

ふる里中川根には、地名保育園、瀬平保育園、上長尾保育園、藤川保育園、徳山聖母保育園と五つの保育所、さゆり幼稚園、第一小学校、中央小学校、南部小学校、中川根中学校、果立川根高等学校と六つの文教所があり、昭和三十年代末までの十一の小学校、三つの中学校から比べると、統合され数もすくなくなり、たが、広い地域と分散集落の姿を写っています。

現在茶時の最中ですが、茶時にゴールデンウィークや土曜、日曜に家の手伝いをした子どもは、お茶をいれるの、どうか？川根茶産地のほとんどが、大型製茶工場、茶摘み作業の機械化が進み、自給自足農家から、茶業、モノカルチャー時代へと移り、手作業はほとんど無くなっていきますから、子ども達は、茶産地でありながら茶摘みなどやらせでもらうチャンスは、なかなかない様です。

学校茶園も運営していません。が、お茶を呑む習慣は、どの地域にも負けない位に残っています。都会の方々から見れば、贅沢なほど、茶葉を入れて、お茶を飲んだり、うがいしたりしています。

又、町内の三つの小学校もそれぞれ地域の学校として、健やかに育んでいます。静岡県の施策として、中高一貫教育のモデル校として、地域型校として、川根高校がえらばれました。今後、学校訪問して、子供達の姿を紹介していきたいと思えます。

あいちゃんの日記

中道正巳

家内が数年前から、近所の奥さん三人と近くの農家の遊んでいる畑を借りて野菜作りをしている。

その一人だった丁さんは昨年肺がんが発見され、現在入院したままである。丁さんはなかなかの才媛である。ご主人は開業歯科医、三人の女の子がいる。市政モニターにも参加。ボランティア活動や外国人のホームステイも受け入れる。また空手も初段の腕前である。入院するまでは忙しい毎日であった。

二年前知り合いから古いパソコンを貰い、ワープロとして使っていると聞いていたので、インターネットを勧めた。本人も前から市の無料パソコン講習会に何回か申し込んでいたようで、すぐにその気になり、部屋の電話回線やパソコンのモデル等、その日のうちに調べる事となった。数日後幸運にも講習会の受講が決まり、数週間通っていたようにした。

丁さんは毎日犬の散歩をしていたが、ある日、その途中で、プロダイバー(ネット接続業者)選定について、何処が良いか話があったが、数日したうにEメールがあり、ホームページを立ち上げたから見えてきた。さういふとあった。インターネットを薦めてから三ヶ月後のことである。ホームページのタイトルは「あいちゃんの日記」。アンネ・フランクのアンネの日記がそうであるように、アンネは自分自身に宛てて手紙のように日記を書いていました。また、自分の気持ちだけでなく、日々の細かい社会情勢までも書いています。張る人



に、時代を越えた問いかけをしてくるのです。アンネは、日記の書きはじめに「あなたにならぬ、これまででこれにも打ち明けられなかった事を、何もかもお話しできそうです。どうか、わたしのために、大きな支えと慰めになつて下さいね」と記した。あなたには、日記のこと、「あいちゃんの日記」も、今は同じような気持ちではないだろうか。……

日記の初めの頃は、病気の症状はなかった。自覚症状があつて、病院へ検査入院し、病名を告知されるその時の様子と数日後の様子は実に淡々と書いています。

病状の重大さを自覚しながらも、平静で、明るささえもある文章である。何故だろうか。病氣と向き合う丁さんの心情に、日記を読む人、それれが、思い思いの感慨を抱くこととしよう。病氣が発覚してからもう丁さんは地域の為にいろいろな活動をしている。近くの小川の護岸工事があり、歩道も同時に併設した。完成した時点で、市は歩道をアスルト舗装しようとした。この工事の裏には何かがある。……そう感じ、丁さんは市の工事課へ、「何故、なんでもかんでもコンクリートで固め、自然を残さないのか」と断じこんだのである。相手は、市の工事課だけではなかった。市議、土地整理組合理事、予想したように舗装工事は政治からみだつたのだ。また、近くに携帯電話の送受信塔の建設計画が出た時も、建設反対の署名運動もした。

この時は私にもメールがあり、「知っている事と思いますが、ニロメートルから三ロメートルが一番電磁波の強い所、中道さんちも入ります」とあった。

携帯電話の電磁波が人体に影響があるのではと世間で危惧し、W・H・O(世界保健機構)も今調査中であるという。各地でこれらの建設について反対運動が起きています。町内の通信基地建設も反対するので、署名活動を始めた。協力して下さい。というものであった。その後、電話会社と建設会社もTさんを無視する事はできず、説明会を開く事にしたのである。

これらTさんの幾つかの活動は詳しく日記に掲載されている。Tさんのカルテは、T4-N3-M1となっているそうである。Nはのからまで。それは第4ステージを意味する。Tさんのファイティングに対して、私は何もしてあげることが出来ない。日記に書かれている事を理解し、共感するだけである。それがTさんへの励みになる事を信じながら。

あいちゃんの日記は「あいちゃんの肺がん闘病日記」とタイトルが変わり、だいぶ日々が経つが三回目の入院日、二月二十一日で止まったままである。その日記から受けるTさんの人生観と人格の全てをここで伝える事が出来ません。一人でも多くの皆様の「あいちゃんの日記」「あいちゃんの肺がん闘病日記」へアクセスしてご覧になって下さい。

URL = <http://village.infoweb.ne.jp/~fwnv8286/nov.htm> (ニールター)



東京のかたすみから (31)
 テレビの始めから終りまで
 テレビは遠州浜松から

渡邊 實 夫

十数年前の上長尾国民学校の同級会の時だったと思う。現在、中川根町のシルバー人材センターの事務局長をやっている市川学君から「ジツツアンは運が良かったよな……高柳健次郎のテレビ学校へ行けたんだからな」と言われた。テレビで生業をたて、定年後の今もテレビ局からの年金で暮らしている私としては、恩人高柳先生のこと一度は触れてみたいと思っていた。テレビが大正から昭和のはじめにかけて、空っ風の吹きすさむ遠州浜松で、浜松高等工業の助教、高柳健次郎先生によって考え出され、実験されたことを、ご記憶の方は、またいらっしゃることだろう。先生は天竜川沿いの和田村で生まれ、小学校時代から海軍の「トニツ無線電信」に興味をいだかれたという。そして私が生まれる五年前の大正十五年十二月、「イ」の字のテレビ伝送実験に成功した。



テレビ50年史より



1926(大正15)年12月、高柳健次郎博士はブラウン管の伝送実験に、小さな「イ」の字を映し出すことに成功した。それは世界で初めてのことであり、日本のテレビ元ネタでもあった。(81年11月13日号)

1926年、
 世界初の
 テレビ映像が
 映し出された。
 そして
 1953年、
 テレビ本放送が
 始まった。

広島へ落とした原子爆弾は、世界の科学者六〇〇〇人を集めて、アメリカの国家予算の三倍をかけてロスアラモスの秘密村で研究開発された。

高柳先生は研究費五〇〇万円を使い尽くしてしまい、奥さんの結婚持参金三〇〇万円を使わせてもらって、抵抗やコンテンサーは自分で作って、テレビの研究、実験をうづけた。

テレビと原爆(核開発)では次元が違い比較するつもりはないが、先生のテレビの発明は、人類にとりだけ貢献しているか計り知れない。

昭和二十六年夏のこと、先生の特別講演が行われ私も出席した。物静かな方で、やさしくゆつくりと「テレビの発明にいたる経緯と苦心談」を話された。私は未だに一つだけ忘れずに覚えている、とがある。

それは、もし、ブラウン管のガラスが割れると大変なことになる。先生の計算によると、五メートルのブラウン管が爆発すると、前にいる人間は吸い込まれてしまう、という話であった。

その後の研究で、ブラウン管の爆発原因はガラスのムラと分かり、割れないブラウン管の製法に成功した。

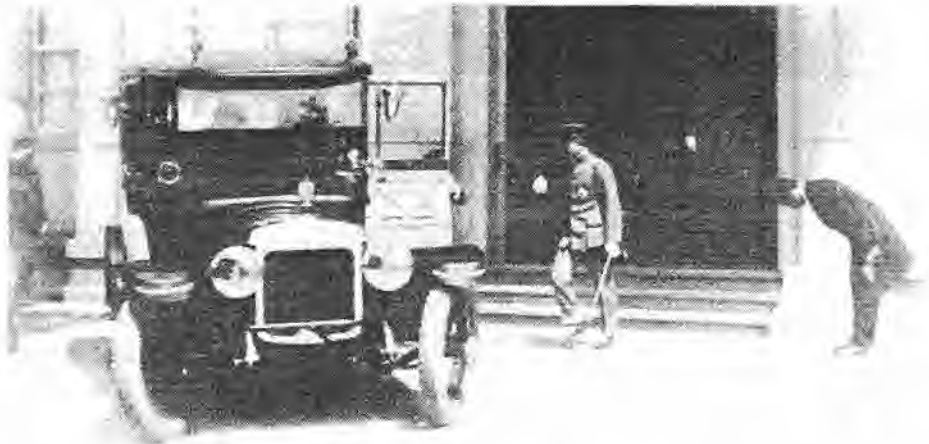
昭和天皇がテレビを御覧になるため、浜松の地にいられ、やることになった時、一番心配されたことは、天覧中、ブラウン管が爆発して陛下に怪我を負わせる事故が発生しかねないということであった。実は天覧一週間前、予備に保管してあったブラウン管が自然に爆発したのである。

そこで先生は学校の事務員室に泊り込み、齋戒沐浴してお祈りをし、一週間徹底的にテストを重ねて、陛下に万一のことがあっては大変と、安全性を確かめ、これならは無事天覧いただけるということを確認してから、陛下をお迎えしたのである。

当時、陛下に直接ご説明したり、拝謁したりするには、助教の判任官では不相応で、奏任官の教授でなくてはならなかった。そこで文部省側は、助教の高柳さんを急遽、教授に昇格させた。

ここでちやうと寄り道をすると、昨年親しくしていただりていた栗本慎一郎前国会議員が、脳梗塞で倒れたとき、日本で頼れるのは愛媛大学の助教しかないと言った。治療に四国へ通ったことを思い出す。今でも本音に先端技術の開発・研究にしている実力者の多くは、助教だと言ったら言い過ぎだろうか。

日立の初期のテレビ設計者である掛川市日坂出身の杉本四郎君(梅高の高木利恵さんの弟)は、高柳先生について次のように話してくれた。今日の「IT社会の到来はコンピューター社会が実現したからである。このコンピューターの開発は当初、とてつもない借金食いの虫」と言われ、松下電器産業はコンピューターから一時撤退した時期もあったほどである。この借金食いの虫に、借しげもなく研究資金を注入することが出来て、見事にコンピューター社会を招くことが出来たのは、それに先立って、テレビ受像機製造」と言う、膨大な産業が発展し、そこから生まれた沢山の利潤があったからこそである。



浜松高等工業学校に天皇陛下をお迎えしテレビジョンの
天覧を観る
昭和5年5月31日(1930)



天覧時の受像写真
昭和5年(1930)



天覧時の送像機
昭和5年(1930)

また先生が研究したテレビ技術が基礎となっ
て、その後の以下のような開発がうながされた
のである。

1. コンピューターの計数回路
2. 情報を速く、沢山送る広帯域伝送と帯域圧縮技術
3. テレビの量産技術による電子機器の発達
4. 画像付ケイタイ電話(先生は七十年前、これを「電視」と命名した)
5. 衛星通信の発達など。

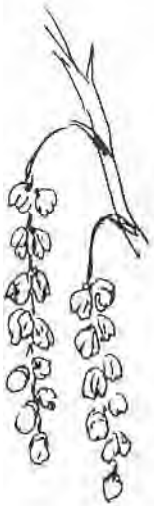
(以上 杉本君の話)

戦後日本で作るテレビには、特許料として、一台五パーセントをアメリカへ支払わなければならなかった。もし、太平洋戦争がなかったら、その特許料が高柳先生に入り、億万長者になった、だろうと言われた。

先生はテレビで大金持ちになり損ねたが、私は定年後も「ふるさと通信」にテレビの連載をさせていた。だいており、気持ちは若いテレビ局建設、開局時代にもどったりして、二倍の人生を味わっている。なんと幸せなことか。
感謝・感謝
(二〇〇二年五月記)

参考 高柳健次郎著 テレビ事始め

静岡大学工学部七〇周年記念写真集



清友会という名の同窓会

小川 恵吉

いのちが生まれ
いのちが死に

時間は あいかわらず流れ続け

それは あるときには

私の意識を通り抜けるようにして

大井川の流れに重なる

流れは

すきとおるときには

あくまでもすきとおる

秋雨前線と台風との重なり具合で

兩岸の山々を

日夜とどろかせるほどの

濁流になるときには

きっぱりと濁流になり

大井川

一世紀あまりの時間のあいだでは

数多くのダムが建設され続けた

その結果

子供達が飛び込み台にする巨大な岩を

呑み込んで荒れる

川のかたちを

とることができなくなった……

へそななあななⅡVより



昭和二十三年度徳山中学校の卒業生の会である。当時ではそれまでの旧制に対して、新制中学位といわれていた。おのおのたの人達とは、かれこれ五十年も以前に別れている。

その間の消息も、職業も知らない人がいるし、当然のことながら、あなたは誰でしょう？と尋ねなければ、誰々で見当もつかないほどイメージの変化した人むいた。

よく考えて見ると、わすか三年間、長い人でも九年間の味気ない（と私には思われる）学校生活を送っただけの人々の集まりである。それ以後、共通の生活空間を持っていた訳ではない。どのような生活に豊富な、また共通した話題が持てる、というのだろうか。そのような思いで、私は同窓会に出席した。おおよそ三十何年かぶりである。

二、三年ほど前、東京は柴又、帝釈天と矢切の渡し方面に行った折、その下流域の荒川放水路には川幅一杯に流れがあふれていて、数多くの動力船が日常生活のにおいを乗せ、行き交っていた。大井川は可哀想だなとバスの中で思わず大きな声を出してしまった。

わすかの川の流れは、絶えずブルトリーザによって川の中央部へ、または左岸部へという風に変えられ、砂利運搬の大型ダンプに踏み荒らされ、生態系も大幅に変化させられている。

費用取りと呼はれた人達が掛け声をかけ合っている。豊かな流れに木材を大量に浮かべ、竹竿の先につけたトビを手に、下流へ運搬を繰り返している。

頃の大井川には、大きなウグイもいたし、ヒスイ色をした川セミもいた。淵には、まるまると太ったウナギも住んでいたのである。川石の下の透き間では、セキレイが巣を作り、広い砂場もあちこちにあった。

今では、一様に小石と砂利の白っぽい川原が、長々と横たわっているだけである。カワセミはどこかへ姿を消した。えん堤が造られたせいでウナギも上がっては来ない。

ところで、出席した同窓会で何が見つかったか。私の想像は逆転した。かつてのように豊かな流れをたいた大井川の姿が、会った瞬間から同窓生の心や体には、流れているように思った。

それは、共有する生活空間の長さとかにかかわるものではないか。多少を問わず、大井川流域の文化を受けて育った人達、事実上のふるさととは、変化し続けているのだが、心のふるさとともいいうべきものを全ての同窓生の中に、私は、そのとき、見つけたような気がした。

終

徳山の釜の口付近に、ッせんんころーグというどん淵があったと云う。大きな岩から、小学校上級生以上で、水浴びが、特意な子が、うす巻をく淵へと飛び込んで、声も上げると云う。

それにして、ッせんんころーグとは恐ろしい名前だが、箒師の難所であったのか、はたまた戦国時代の戦いの名残りなのか、今はすっかり小砂利に埋まって、大出岩や淵の姿が見えない。

桜の木

地名出身 中原 朗

今年も南から桜前線が訪れ、そして花吹雪と共に去って行きました。この季節になると、いつもふる里の桜の木を思い出します。

今から四十年ほど前、私の小学校の卒業記念に植えるようにと、父が二本の桜の木を買ってきてくれました。一本は校庭の裏に、一本は家の庭に植えました。

それから何年か後、地名小学校は廃校となりました。久しぶりに地名に帰り、校庭裏の桜の木を捜してみましたが、もうすでに切り株さえも見あたりませんでした。これが、本当に母校が無くなってしまったんだと、実感した瞬間でした。

一方、我が家の庭に植えた桜は、今では家を覆い隠さなばかりに大きくなり、私が地名の家に帰る度に、大きな枝を広げて、私を迎え入れてくれます。それは、十年程前に亡くなった父の抱擁のようにさえ感じられます。地名にはたまにしか帰れないのですが、昨年家に帰った時、九十一才になる母がこの桜の木について書いた、次のような文章を見せてくれました。とても印象的な内容で、今でも私の宝物です。

車庫の横に一本の桜の木が



地名小学校 41元年級台

あります。車庫を建てる時、当然切り倒されるものと思っておりました。この木は、私の末の男の子が、小学校卒業記念にと植えたものでした。

節分は過ぎたとは言え、まだまだ寒い二月の半ば頃でした。枯れ木かと思紛うこの木に、無数の鳥が集まっておりました。私は小鳥音痴とでも言うのでしようか、雀と燕くらいしか見分けられないのですが、燕より少し大きい黒い羽色ですから、多分むく鳥ではないかと思ひます。

何をして居るのだろうかと見ておりますと二三羽ツイと畑へ飛んで行き、帰ってきます。とまた二三羽代わって飛んで行きます。どうやら、キヤベツの葉を啄んでいるらしいのです。動作の間に何を語り合っているのか、賑やかに三四日を過ごしたと思うと、見事に一羽残らず引き上げて行きました。畑に丸坊主にされたキヤベツが、寒そうに震えております。まあ仕方ない鳥だから、お腹が空いているんだらうから、と思ひながら、洗濯物を取り込む段になると、ムツと致しました。まっ白に干し上がったシーツに、肌着に、青い糞がべったり付いているのです。

「むく鳥よキヤベツ啄むはよしとすも

洗濯物は汚さずにくれ

むく鳥の去った後、色々の小鳥がちらほらと来て遊んでおりました。どうやらテートの季節らしく、チヤツと呼び合つては戯れておりました。

肌にかさねる日差しも風も、何となく春めいて来たな

キルキルリッリッ

47トリ



と感ずる頃になると、枯れ木のように見えた木肌が、何となく潤んだように黒くなり、枝々の先が艶めいて来ます。もうすぐ花の季節です。テレビで桜前線の放送を流すころ、我が家の桜も三分咲、五分咲と咲き始め、手押車で縫製の所まで行って満開の桜を見ました。青い空、青い屋根に映えて美しく、今年もお花見が出来たと満足致しました。桜は散りぎれこそ、と言われますけれど、花吹雪の時の見事さは、言葉に言い表されません。座敷の中まで舞い込んでくれました。

「花吹雪 仲間に入りしをそのままに」

今はもう葉桜となって大きな陰を作ってくれています。先日、夕立のような大雨が降って来たことがありました。どうも葉の動きが変だと思ひ、腫をこらして見ますと、小鳥達が葉陰に潜んでおりました。ああ、鳥達はこうして雨宿りをして居るのだな、と思ひ入りました。

やがて梅雨が明ければ、この太い幹にカブト虫もアリ達も集まって来ることでしょう。毛虫も蝶になる前の一時を過ごし、蟬の大合奏が始まり、賑やかになることと思ひます。

「たつた一本の木にも四季折々、様々なドラマが生れることを知りまうた。」

そして、あの裸にされたキヤベツ、駄目かと思つて



昭和61年5月31日～6月1日の2日間 第1回自然の森観察会を開いたのを先頭に毎年、春、秋と回を重ね4月29日第39回 アカヤシオ観察会が大札山を中心に開催されました。

15年の歳月が流れるうちに、アカヤシオやシロヤシオの群生する地、しかも、車で現地付近まで行けるという利点もあって、大勢の人達が訪れるようになりました。

今年は、ほぼ例年どおり、見事な花をつけて、むかえてくれました。花数も多く、色も美しく、参加した人達も満足なさったと思います。

第1回観察会は山犬殿にある静岡大学農学部演習宿舎で行われ、周辺の森林の様子や「パートナーシップ」など行われたのですが、シロヤシオの満開期に当たるにもかかわらず、シロヤシオは目立たなかったように記憶しています。自然界の樹木は、花を付ける年と休む年が決まっています。何年かの周期で営まれている様です。

今年のアカヤシオは花の数も多く、色もすばらしかった。大札山山頂は、花見登山の人達で大にぎわいでした。その中に犬をつれて来ている方が何人かいらっしゃいましたが、登山シーズン時や、野生動物も共生している地帯への犬同伴は、できれば止めていたいただきたいと思います。

中川根町では、自然の森観察会をとおして豊かな森、きびしい森、美しい森への案内と、自然環境の勉強をしていただく催しを年間数回計画しております。5月末からは、天体観測もはじまりメニューもふえました。新聞等にそのつど募集が載りますから、是非参加してみてください。

※第40回自然の森観察会は、6月1日～2日、シロヤシオ、スターウォッチングなどです。

問い合わせ先は、中川根町役場、産業課、観光係、TEL. 0547-56-2226

第39回
中川根自然の森観察会

平成十三年五月八日 〒三〇五〇〇〇三二
つくば市竹園二丁目八〇八ノ三〇三

おりまゝのには、脇芽が覗いたと思うと見る見るほころんで、見事な玉を結んでくれました。農薬を使わないので、今度は青虫の攻勢に悩まされまゝです。

青虫と分け合って食べるキャベツかな

この文章を読み返すたびに、母が永遠に元気でいてくれるような気がしております。そして永遠にふる里が変わらないでいてくれるような気がしております。



大札山南東登山道をゆくり観察しはから進む一行約30人

定期購読のお願い

中川根ふる里通信は有料発行です。

1部 年共200円

皆様の定期購読がふる里通信の発行を支えます。年間4回の発行(3ヶ月ごと)を予定しております。今回で購読の切れる方と始めてふる里通信をご覧になれる方には、郵便振替用紙を同封致しますから引き続きご購読をよろしくお願いいたします。

もし、購読を止めたい時や住所変更のりも是非ご連絡下さい

郵便振替通知票番号

00870-4-81556

加入者名 中川根ふる里通信係

ふる里通信に関する問い合わせ先・及

発行責任者 〒428-0313

静岡県榛原郡中川根町上長尾 859-6

川 沢 節 子

TEL 0547-56-0015

今回号は十六ページにまとめられませんでしたので二十ページとなりました。アカヤシオの写真も同封いたします。ご返下さい。発行のおくれとお詫び申し上げますと供にあいちちゃんを願ってひたすら願って終りたいと思います。今回は盛夏になるでしょう。

思っています。前記の様に四月が二回ありました。何やらやそろに天変を心配する気持ちにもなれませんが、災いのない一年であってほしいと思います。

中川根自然の森観察会が九十五年続いています。第一回に参加して下さった皆さんが「あちこちにいってしゃべって、あの時参加したんだよ。」と懐しげに語られる。あれから中川根びとになって下さった方もおられる。やはり自然はかけがえのないものです。これからも心身のリフレッシュに訪れてください。春野町のアカヤシオの群生地、岩岳山ではあまりに訪れる人が多いため、アカヤシオや樹木の樹勢がおとろえてしまつて、入山規制に入つたと言われます。中川根の山々も訪れてくる人々の自然へのいたわりでいつまでも訪れる人々を迎えられますようにと思ひます。

ふる里通信も自然の森観察会より一ヶ月早く始めて十六年目に入りました。この間多くの入々にささえられてここまで続けてこられました。お礼申し上げます。五十号で一段落八十号で二十年余と思っております。みな様の寄稿お待ちしています。又近くにふる里通信の事知らない方がいらつしやいましたら、ご案内下さい。よろしくお願いいたします。

暦のこと、四月二十四日は旧暦の四月朔日、四月は二十九日で終わり五月二十三日は閏四月朔日、閏四月も二十九日となり旧暦五月朔日は六月二十一日の夏至に至る。ある人がおっしゃるには閏四月は、三十二年ごとにあるとある。来たる年まであり、この年は天候不順、農作物は実りが少ない。大変な年だ。……との事でした。さつそく、いつも暦を見ますと前記の様に四月が二回ありました。何やらやそろに天変を心配する気持ちにもなれませんが、災いのない一年であってほしいと思います。